

# 箱ひげ図(1次と2次の授業について)

## 1次について

### 導入問題の工夫

A組、B組どちらか選択する問題である。

このデータは、総数・平均値だとA組を選ぶことになる。また、最頻値でもA組となる。しかし、中央値でみるとB組になる。そこで箱ひげ図の知識を与えることで、分布の様子を読み取れるようになり、箱の部分だけに着目すると「B組が多い」と判断することもできる問題である。

### 生徒配布プリント「箱ひげ図」

A組の箱ひげ図は見本として配布する。どんな意味があるのかを部分的に考えていくことで、箱ひげ図のつくりを理解させ、自分で作れるようになるようにした。

### 生徒配布：練習問題

特に工夫はなく、基礎的な知識を確認するだけにした。

## 2次について

### 導入問題の工夫

お金に関する問題。2年生は職場体験学習を総合的な学習の時間で行ったことから、職業という興味をもてる題材にした。選択することに正解はなく、自分なりに読み取って判断できることを大事にさせた。

職種Dについては、ひげの部分が極端に短くなっている。これが何を意味するかを考えさせ、ヒストグラムとして考えることを新たな視点として与えた。この問題は、ヒストグラムと関連させることで、もっと読み取りが深くなると考えた。

### 生徒配布：練習問題

大問1・・・箱ひげ図とヒストグラムを結びつける問題。

大問2・・・箱ひげ図の読み取り問題。代表値をまずは読み取る生徒がほとんどであるが、それ以外の「分布」という視点での読み取りに力を入れた。